

■地域別構想の検討

（１）地域別構想とは

<全体構想>

○朝霞市の目指すまちづくりの将来像	
だれもが誇れる 暮らしつづけたいまち 朝霞	
○まちづくりのテーマの方針	
テーマ	方針
私らしい暮らし	自然と利便性が共存するコンパクトな住宅都市であることを活かし、一人ひとりがいきいきと暮らせるまちを目指します。
にぎわい・活力	四季折々のイベントが充実し笑顔が絶えないワクワクするまち、鉄道駅や道路ネットワークを生かした活力のあるまちを目指します。
快適な移動	多様な交通手段でつながる、安全で快適な移動環境のあるウォークアブルなまちを目指します。
自然・環境	みずとみどりのある朝霞らしい風景を守り、親しみ、未来のこどもたちに胸を張って残せる持続可能なまちを目指します。
安全・安心	災害が発生しても、被害を最小限に留めるとともに素早く確実に復旧でき、日常生活のなかで防犯とともに備えができているまちを目指します。



<地域別構想>

○地域別構想とは

- 全体構想における将来像及び各テーマの方針のもと、その実現に向けた市内5つの地域における「**地域づくりの目標（目標＋方針図）**」と**地域における具体的な取組「地域づくりの基本方針」**を整理したものです。
- 各地域の「地域づくりの目標」や「地域づくりの基本方針」は、**市民アンケート調査や地域別サロンにおける市民等の意見をもとに整理**するとともに、各地域で検討したことは全体構想に反映させます。

○地域別構想の構成

1. 地域区分の設定

2. 内間木地域

3. 北部地域

4. 東部地域

5. 西部地域

6. 南部地域

<各地域の構成>

(1) 地域の概要

(2) 地域に関する評価

- 地域の魅力と課題の整理

(3) 地域づくりの目標

- 将来像と方針図を整理

(4) 地域づくりの基本方針

- ① テーマ「私らしい暮らし」
- ② テーマ「にぎわい・活力」
- ③ テーマ「快適な移動」
- ④ テーマ「自然・環境」
- ⑤ テーマ「安全・安心」

<基本方針に整理する地域の取組>

- 特定の地域に限らず、市全体で取組ものは地域別構想には記載しない
- 全体構想の取組のうち、地域の特定の場所で取り組むものなど地域の取組を整理する

○地域の取組は以下の意見等をもとに設定します

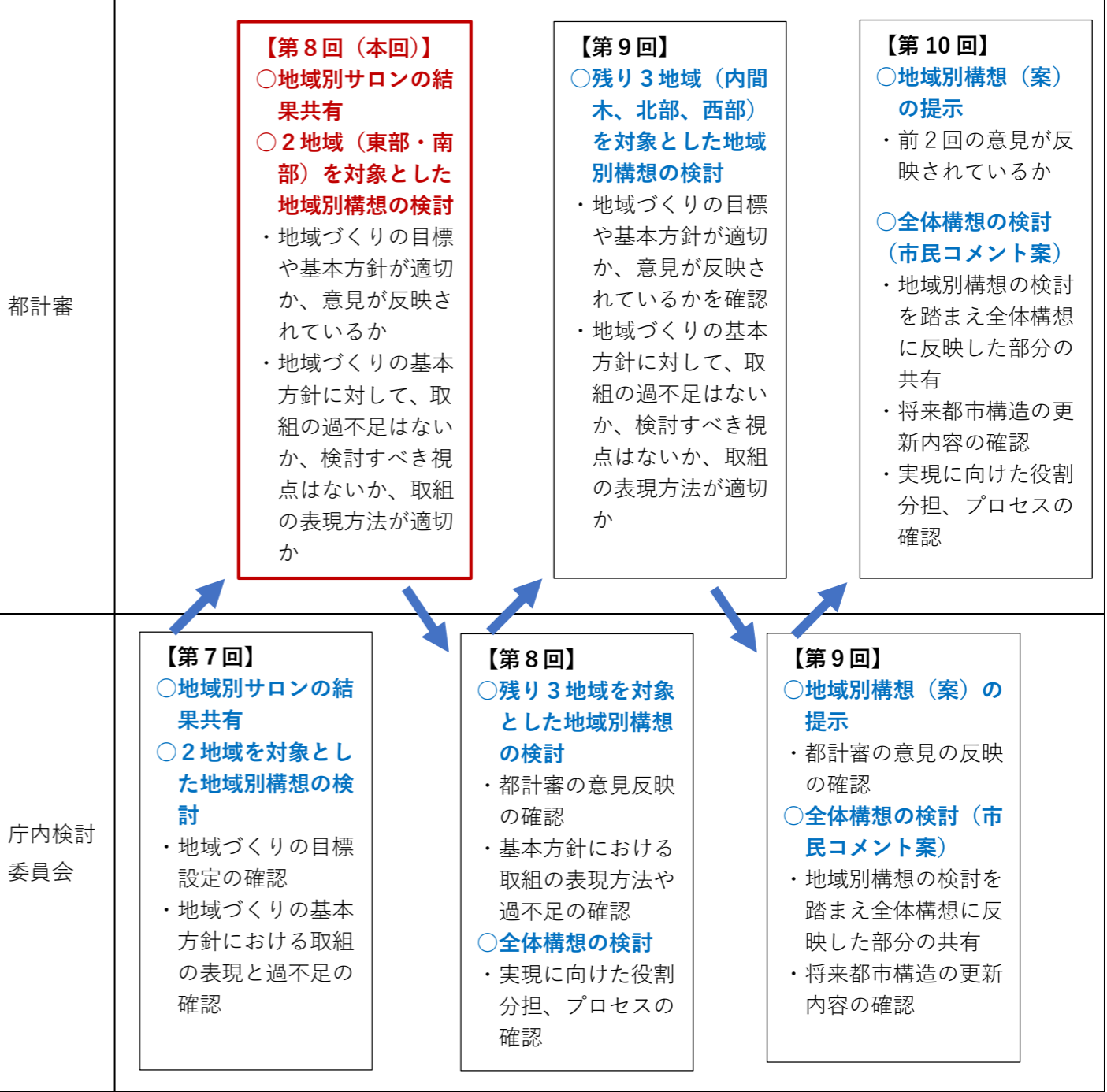
- 市民アンケート（総計、都市マス）
- まちづくりサロン（地域別）
- 市が検討している取組 等

（２）地域別構想の検討プロセス

<都市マス策定までのスケジュール>

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
都計審		● 第8回			● 第9回		● 第10回			● 第11回
庁内検討委員会		● 第7回		● 第8回		● 第9回			● 第10回	

<市民コメントまでの各会議での議題と確認事項>



■東部地域の検討

1. 市民アンケートや地域別サロンの成果の振り返り

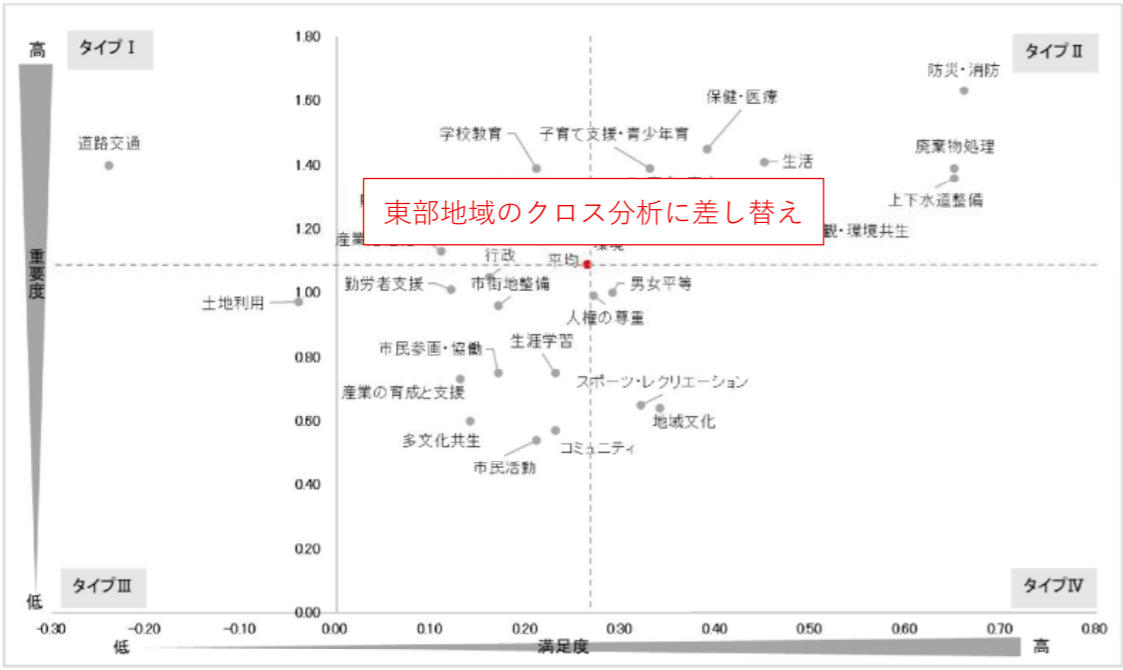
○市民アンケート（総合計画）

総合計画における市民アンケート調査の結果の考察を追記

※総合計画アンケートより、以下の項目の地域別結果を再整理・考察

- ・各分野の取組の満足度・重要度
- ・将来の朝霞市はどのようなまちであればよいか

（各分野の取組の満足度・重要度）

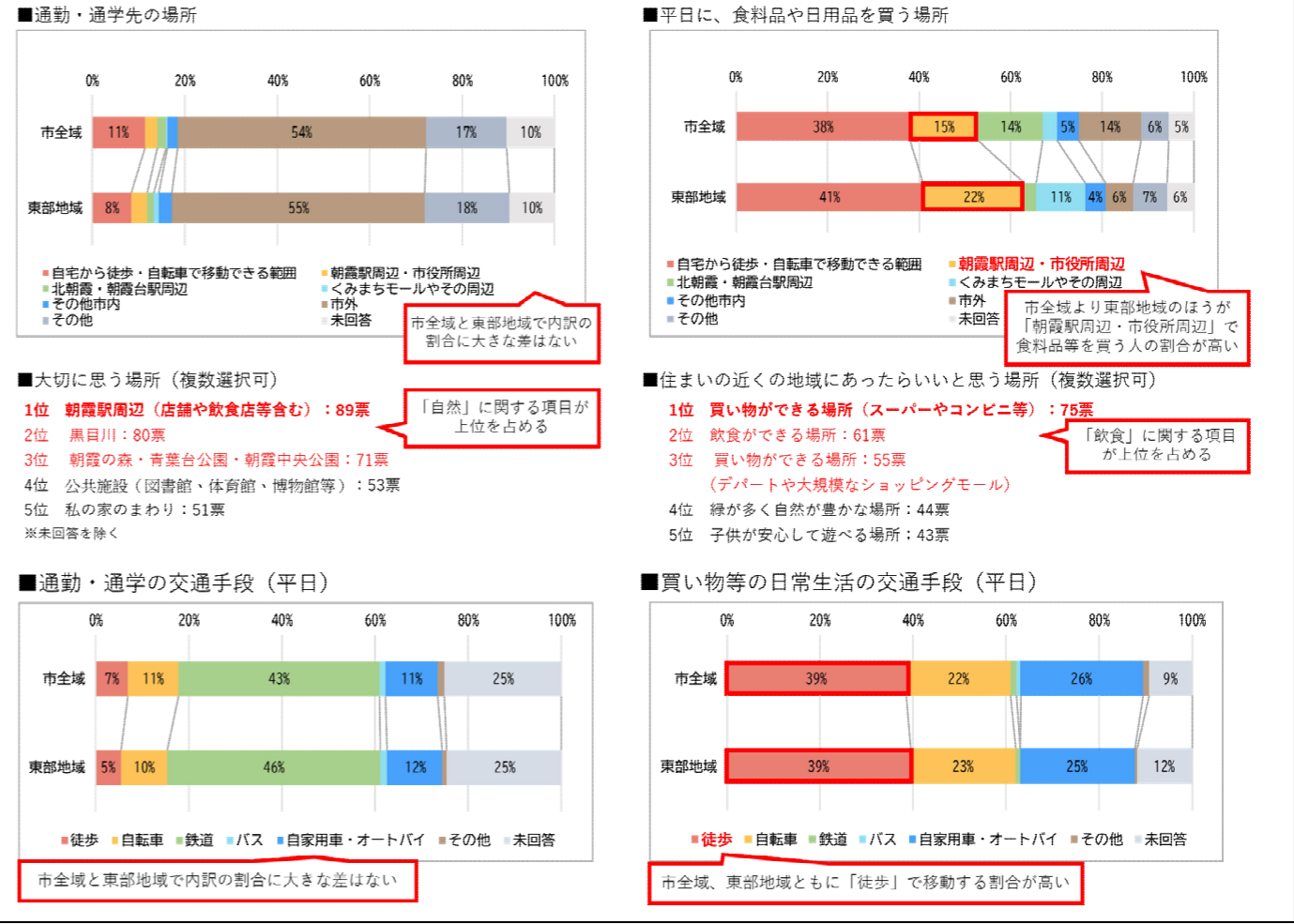


なお、4つの象限別には、以下のとおり分類される。

タイプⅠ	「重要度」が平均値以上で、「満足度」は平均値以下のもの。 重要度が高いが、現在の満足度が低いことから、 今後力を入れて取り組むべきと考えられる項目
タイプⅡ	「重要度」が平均値以上で、「満足度」も平均値以上のもの。 今後の重要度が高いが、現在の満足度も高いことから、 現状維持を図るべきと考えられる項目
タイプⅢ	「重要度」が平均値以下で、「満足度」も平均値以下のもの。 現在の満足度が低いが、今後の重要度も低いことから、 状況に応じて取り組むべきと考えられる項目
タイプⅣ	「重要度」が平均値以下で、「満足度」は平均値以上のもの。 現在の満足度が高く、今後の重要度は低いことから、 水準の維持は求められるが、市民からみた優先度は高くはないと考えられる項目

○市民アンケート（都市マス：「暮らし方（活動）」と「住まい方」について）

- ・買物等の日常的な生活行動を「地域内」で行う人が多く、移動手段としては「徒歩」が選ばれる傾向がみられます。
- ・大切に思う場所については、「朝霞駅周辺」や「黒目川等の自然」に関する項目が上位を占めています。また、近くの地域にあったらいいと思う場所では、「買物」や「飲食」が上位を占めますが、「自然が豊かな場所」や「子供が安心して遊べる場所」との意見も多数みられました。



○775 マーケットにおける意見

- ・地域の良いところとして「緑や畑がある穏やかな住環境」に関する意見が複数みられ、地域の改善したいところでは「歩行者の安全性」や「公共交通の利便性」、「にぎわいの創出」に関する意見がみられました。

<地域の良いところ>

イベントがあること／桜がきれい／黒目川の桜／地域の人があたたかい／ひいらぎ坂／お祭りが多い／高い建物がなく空が広い／緑や畑があって心が穏やかになる／東上線の急行が止まり便利になった 等

<地域の改善したいところ>

南北へのバスルートがない／歩道を増やしてほしい／安全な歩道が少ない／交通の便を充実させてほしい 住宅地は歩道が狭く車とすれ違うのが怖いときがある／駅近に大規模な商業施設が欲しい 等

○まちづくりサロン（地域別）

- ・まちづくりサロンでは、地域の「魅力」や「課題」を抽出し、各キーワードに対してどのような対応が必要かをマッピングシートに整理しました(右図)。その分布を踏まえ、東部地域としてどのようなまちづくりを進めていくべきなのか意見交換を行い、5つのまちづくりのテーマに対する将来の想い「まちづくりの5か条」を整理しました(下図)。
- ・意見交換では、「農地や斜面林等のある静かな居住環境の維持」や「誰もが移動しやすい環境づくり」、「駅周辺やIC・バイパス周辺での活性化と既存の居住環境の維持を両立したメリハリのあるまちづくり」について、参加者の共通意見として出されました。

まちづくりの5か条(将来への想い)

暮らし

居住環境を高めつつ
地域力も高める

議論の要点

自然や田畑が残る静かな居住環境を維持しつつ、生活利便性をより高めていくことが必要であること。加えて、地域のつながりも高めていくことが必要との意見が出されました。

賑わい

メリハリをつけて
にぎわいを創出

議論の要点

駅周辺やIC・バイパス周辺では商業や産業の活性化を計画的に進めつつ、既存の居住環境は維持していくような、メリハリのあるにぎわい創出を図っていくことが必要との意見が出されました。

快適な移動

誰もが移動しやすい
環境の創出

議論の要点

道路が狭く、見通しが悪い道路が存在するなど、交通環境の確保が求められること。また、今後高齢化が進んでいく中でデマンドバスの導入など誰もが移動しやすい環境を整えていくことが必要との意見が出されました。

持続可能

農地や斜面林等の地域資源の
維持・活用

議論の要点

農地や斜面林などの地域資源を適切に残していくためには、資源の活用を図るとともに、管理等の仕組みを整えていくことが必要との意見が出されました。

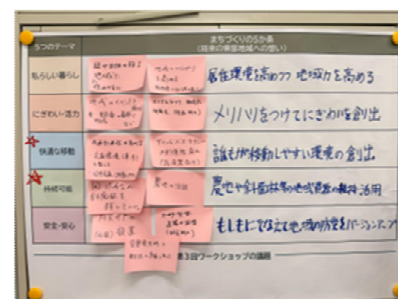
安心・安全

もしもに備えて
地域の防災をバージョンアップ

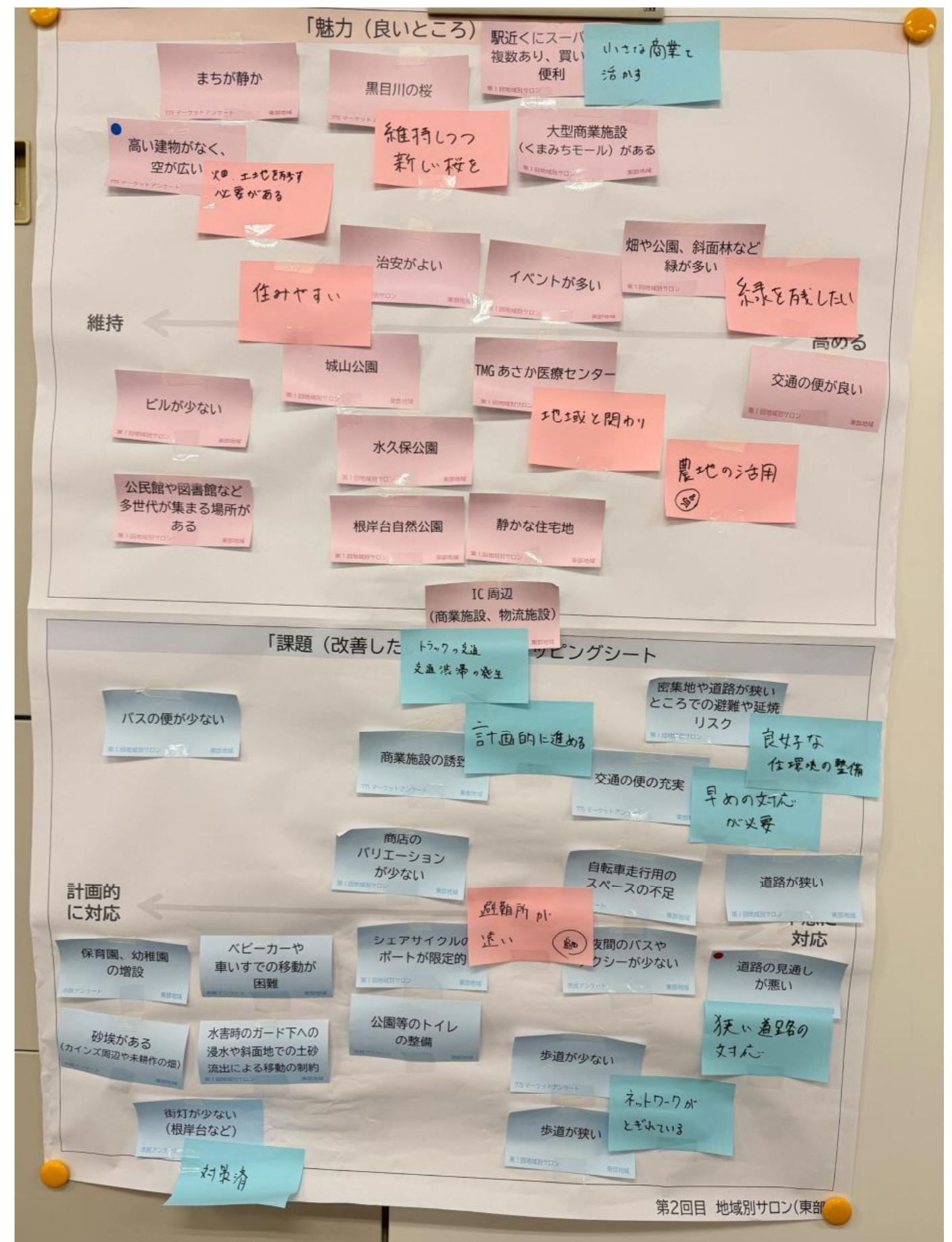
議論の要点

災害発生時だけでなく、その後の対応も含めた準備を整えておくことが必要との意見が出されました。

【模造紙の記入例】



<マッピングシート「魅力」と「課題」>



2. 東部地域の将来像とその実現に向けて取り組むべきこと

○市民アンケートやまちづくりサロン（地域別）等での意見の要点

市民アンケートやまちづくりサロンでは「自然や農地等の地域資源」を大事にしたい、子どもから高齢者まで誰もが移動しやすく、移動の選択肢が多数あるような「交通利便性」を高めたいとの意見が多くあったため、将来像に「農地や斜面林のある静かな居住環境や交通利便性を確保」を取り入れます。

一方で、朝霞駅周辺や IC・バイパス周辺では「賑わいの創出」が求められ、良好な住環境とだけでなく朝霞市の経済的なにぎわい・活力の拠点としての役割も求められていることから、「にぎわいと活力の創出によるメリハリのあるまち」も取り入れ、住環境と賑わいの両立を目指す将来像としました。

○東部地域の将来像

<将来像>

農地や斜面林のある静かな居住環境や交通利便性を確保しつつ地域力を高め 拠点ではにぎわいと活力の創出によるメリハリのあるまち
--

<まちづくりの5か条（まちづくりのテーマに対する将来の想い）>

テーマ	まちづくりのテーマに対する将来の想い
私らしい暮らし	居住環境を高めつつ地域力も高める （サロンでの意見） ・自然や田畑が残る静かな居住環境を維持しつつ、生活利便性をより高めていくことが必要であること。加えて、地域のつながりも高めていくことが必要との意見が出された。
にぎわい・活力	メリハリをつけてにぎわいを創出 （サロンでの意見） ・駅周辺や IC・バイパス周辺では商業や産業の活性化を計画的に進めつつ、既存の居住環境は維持していくような、メリハリのあるにぎわい創出を図っていくことが必要との意見が出された。
快適な移動	誰もが移動しやすい環境の創出 （サロンでの意見） ・道路が狭く、見通しが悪い道路が存在するなど、交通環境の確保が求められること。また、今後高齢化が進んでいく中でデマンドバスの導入など誰もが移動しやすい環境を整えていくことが必要との意見が出された。
自然・環境	農地や斜面林等の地域資源の維持・活用 （サロンでの意見） ・農地や斜面林などの地域資源を適切に残していくためには、資源の活用を図るとともに、管理等の仕組みを整えていくことが必要との意見が出された。
安全・安心	もしもに備えて地域の防災をバージョンアップ （サロンでの意見） ・災害発生時だけでなく、その後の対応も含めた準備を整えておくことが必要との意見が出された。

○東部地区のまちづくりの5か条を実現するために取り組むべきこと（市民意見の再整理）

テーマ	将来像の実現に向けた主な取組
私らしい暮らし	○自然や田畑が残る静かな居住環境を維持する ・農地や斜面林等の適切な維持管理・活用 ○生活利便性をより高めていく ・既存ストックを活用した、コワーキングスペース等の働く場や、ローカルビジネスやスタートアップ企業を育てる場の創出 ○地域のつながりを高める ・駅前広場などの道路空間を活用したイベントの実施 ・大学との連携強化
にぎわい・活力	○朝霞駅周辺の活気のあるまちづくり ・駅前広場などの道路空間を活用したイベントの実施 ・交通規制の導入やバリアフリー化等による歩行空間の確保 ・既存ストックを活用した都市機能の充実とアイレベルのオープン化 ○IC・バイパス周辺でのポテンシャルを活かした計画的な産業の活性化 ・バイパス整備と合わせた産業や商業施設の誘致などの沿道土地利用の促進 ・防災や農地・自然環境の保全、住環境との調和のとれた適切な土地利用の推進
快適な移動	○交通安全の確保 ・歩行者、自転車ネットワークの形成（片側だけでも歩道の確保等） ・通学路における交通安全対策の強化 ・都市計画道路の整備（岡通線、駅東通線） ・駅へのアクセスルートの安全性向上 ○地域の移動の足の確保 ・コミュニティバスのルート見直し、隣接市との連携 ・デマンドバスの導入など、新たなモビリティの積極的な導入
自然・環境	○農地や斜面林などの地域資源の保全・活用 ・地域資源の保全・活用を図る仕組みづくりを公民連携により検討 ・農地の市民農園化など、農魚に関わることのできる仕組みづくり ・農業の高付加価値化や法人化、販売ルートの開拓に向けた支援
安全・安心	○災害に強い住環境への改善 ・地区計画地区内における計画的なまちづくりによる防災性の向上 ・木造住宅が密集する地域や、狭あい道路や行き止まり道路が多い地区における基盤整備の推進や建物の不燃化、耐震化などによる防災性の向上 ・鉄道をアンダーで通過する箇所における大雨等による浸水対策の強化

まちづくりの5か条の実現に向けて、どんなことに取り組むべきか

3. 東部地域の地域づくりの基本方針

市民アンケートやサロン等で頂いた意見等を踏まえ、市が検討している取組と合わせて各テーマのまちづくりの5か条の実現に向けた具体的な取組を「地域づくりの基本方針」として整理しました。

■テーマ「私らしい暮らし」

<全体構想に位置づけられ、本地域でも取り組むもの>

- ①歩いて暮らせる駅近な地域づくり（バリアフリー対応／交通手段の確保／ルール作り 等）
- ②駅とみどりをつなぐ、公共交通で移動しやすい地域づくり（交通利便性の高いバス路線の維持／選択できる移動手段の確保 等）
- ③利便性と自然が調和したゆとりのある地域づくり（自然と調和したまちなみの維持／生活道路の拡幅 等）
- ④みずとみどりに恵まれた穏やかな地域づくり（市街化調整区域での無秩序な開発抑制 等）
- ⑤市民サービスを支える広域型都市機能の充実（誘導施設の誘導／公共施設の集約化／国道254号バイパス沿道における取組の推進 等）
- ⑥地域生活を支える地域型都市機能の充実（都市機能の適正配置 等）
- ⑦既存の土地や建物を活用した柔軟な機能確保（既存ストックのリノベーション／空き家・空き店舗の利活用 等）【方針図の提案より】
- ⑧オープンスペースの創出と利活用（交流スペース等の整備／リノベーションによる新たな公共空間の創出／公園や広場の利活用 等）
- ⑩共創による新たな価値の発掘（官民連携による共創の場づくり 等）

<地域の取組（取組場所が具体的なもの）>

- ③利便性と自然が調和したゆとりのある地域づくり
 - A) 岡・根岸台地区における農地や斜面林等の残る静かな居住環境の維持
- ⑤市民サービスを支える広域型都市機能の充実
 - B) 黒目川周辺の市街化調整区域における利便性の高い公共施設の維持集約化を図りつつ、東部地域への人の流れを生み出すまちづくりの推進
 - C) 農業や自然を守りつつバイパスのポテンシャルを活かす
- ⑧オープンスペースの創出と利活用
 - D) 朝霞駅東口の駅前広場などの道路空間を活用したイベントの実施【方針図の提案より】
- ⑨私らしく働く場、活躍できる場の確保
 - E) 朝霞駅周辺における空き家、空き店舗などの既存ストックを活用した、コワーキングスペース等の働く場や、ローカルビジネスやスタートアップ企業を育てる場の創出
- ⑩共創による新たな価値の発掘
 - F) 大学との連携強化

【新たな視点】

大学から病院等、公共公益施設から地域へ波及、連携

緑文字：サロンで出された意見で全体構想に位置づけのある取組
青文字：サロンで出された意見で全体構想にない新たな取組
黒文字：全体構想に位置づけがある地域の取組

■テーマ「にぎわい・活力」

<全体構想に位置づけられ、本地域でも取り組むもの>

- ①朝霞駅周辺の活気あるまちづくり（イベントの企画者の発掘・育成 等）
- ③誰もが楽しく歩ける空間の整備（駅周辺のベンチの整備／バリアフリー化と交通結節機能強化 等）
- ④工業系地域における、居住環境にも配慮した生活環境の確保（地区計画による建物用途の制限／緩衝緑地等の整備、用途地域の見直し 等）
- ⑤企業と住民で共につくる地域経済の活性化（企業と地元住民の交流支援 等）
- ⑦新たな産業機能の導入（大規模工場跡地の適正な位置／魅力ある産業の誘致 等）

<地域の取組（取組場所が特定されるもの）>

- ①朝霞駅周辺の活気あるまちづくり
 - A) 朝霞駅周辺の駅前広場等の公共空間を活用したイベントの実施【方針図の提案より】
- ③誰もが楽しく移動できる空間の整備
 - B) 朝霞駅周辺では一方通行や歩行者専用化等の交通規制の導入やバリアフリー化等により誰もが楽しく歩ける空間の形成
 - C) 朝霞駅周辺では既存ストックを活用した都市機能の充実とアイレベルのオープン化による歩いて楽しい空間の創出
- ⑥広域幹線道路沿道の特性を生かした産業用地の創出
 - D) 国道254号バイパス沿道ゾーンでは、整備と合わせた産業や商業施設の誘致など、沿道の土地利用の促進を図る。沿道利用の際には、都市計画等の制度を活用し、防災・減災、農地・自然環境の保全、地域活性化との調和のとれた適切な土地利用を推進

【新たな視点】

駅周辺以外の高齢者の居場所づくり

■テーマ「快適な移動」

<全体構想に位置づけられ、本地域でも取り組むもの>

- ①幹線道路の整備（都市計画道路や主要幹線道路の整備／長期未整備都市計画道路の計画の見直し 等）
②既存道路の改良（既存道路や橋梁の適切な維持管理／交通実態に合わせた道路や交差点の改良 等）
③自転車で走りやすい道づくり（自転車通行空間の整備 等）
④安全で生活できる身近な道づくり（生活道路の整備／交通安全対策／自転車の乗り方のルールの普及・啓発 等）
⑤こどもの未来を守る通学路づくり（通学路における安全対策の充実／歩道橋の維持管理／学校と連携した交通ルールの教育 等）
⑥荷捌きと駐車場の適正化（荷捌きスペースの確保／駐輪場や駐車場の適正配置 等）
⑦どこに住んでいても自由に移動できる多彩な交通手段の充実（地域公共交通の充実／シェアサイクル等の目的地までの最後の区間を補う交通手段の確保／シェアサイクルポートの設置に向けた官民連携 等）
⑧誰もががたつづかないで通れる道づくり（バリアフリー化／ユニバーサルデザイン化 等）
⑨人中心の歩きたくなる道づくり（まちなかベンチの設置／ポケットパークの整備／木陰のある道・休憩施設の整備 等）

<地域の取組（取組場所が具体的なもの）>

- ①幹線道路の整備
A) 都市計画道路である岡通線及び駅東通線の整備による幹線道路ネットワークの強化【方針図の提案より】
- ②既存道路の改良
B) 駅ロータリーでの公共交通と一般車のすみ分け
- ④安全に生活できる身近な道づくり
C) 朝霞駅へのアクセスルートの安全性の向上【方針図の提案より】
D) 鉄道横断の充実による東西方向の連携強化
E) 交通安全対策と交通規制の組み合わせ
F) 片側だけでも歩道を確保するなど歩道のネットワークを強化
- ⑤こどもの未来を守る通学路づくり
G) 朝霞第二小学校及び朝霞第九小学校周辺の通学路では、住宅地でも交通安全対策や交通規制を組み合わせ、安全に通行できる環境を整える
- ⑦どこに住んでいても自由に移動できる多彩な交通手段の充実
H) 根岸台地区においては隣接する和光市との連携による交通・福祉の運用としてコミュニティバス等の公共交通のルート再編により、誰もが移動しやすい環境の形成【方針図の提案より】
- ⑨人中心の歩きたくなる道づくり
I) 駅周辺での一方通行化や歩行者専用化など、時間や曜日での交通規制の検討
J) 駅周辺でのアイレベルのオープン化により歩いて楽しい空間の創出【方針図の提案より】

■テーマ「自然・環境」

<全体構想に位置づけられ、本地域でも取り組むもの>

- ①環境配慮の視点からも選択できる移動手段の確保（地域公共交通の利用促進／環境にやさしいモビリティの選択肢の確保 等）
②環境にやさしい公共空間の整備（公共施設の屋上・壁面緑化／グリーンインフラの考え方を取り入れた公共空間の整備 等）
③環境にやさしい住宅の整備促進（創エネ・省エネ設備の整備促進／長期優良住宅の認定 等）
④生き物が集うみずとみどりの保全（公園の水・緑の維持管理／緑地や斜面林の保全／湧き水や河川の維持管理／河川敷の整備、植栽の維持管理／特定生産緑地の指定などによる生産緑地・農地の維持 等）
⑤みず・みどりを育てる（公共空間における花壇づくり／水と緑のネットワークの形成 等）
⑥みず・みどりの普及（緑・河川を生かしたイベントの実施／生垣設置の奨励／開発事業等における緑化指導／住民等が関わるができる仕組みづくり／民間活力の活用／ 等）
⑦協働による景観づくり（景観についての啓発 等）
⑧みずみずしい風景を生かした自然景観への誘導（景観計画の運用／景観ガイドラインの作成 等）

<地域の取組（取組場所が具体的なもの）>

- ④生き物が集うみず・みどりの保全
A) 岡・根岸台地区に残る農地や斜面林等の地域資源の保全や適切な維持管理、活用を図る仕組みづくりを公民連携により検討
B) 岡・根岸台地区に残る農地を市民農園にする等、農業に関わるができる仕組みづくり
C) 農業の高付加・価値化や法人化、販売ルートの開拓に向けた支援
- ⑧みずみずしい風景を生かした自然景観への誘導
D) 黒目川沿いにおいては、景観づくり重点地区の指定により良好な自然環境の保全・利活用を図る

■テーマ「安全・安心」

<全体構想に位置づけられ、本地域でも取り組むもの>

- ①災害のおそれのある地区からの脱却（災害の危険性の高いエリアからの居住の誘導／災害リスクの低減等）
- ②インフラの強化（上下水道施設の更新・耐震化／道路や橋梁の更新・長寿命化 等）
- ③災害に強い住環境への改善（オープンスペースの創出／防火地域の指定／住宅の耐震化の促進 等）
- ④発災時の核となる防災拠点の形成（震災や水害に対応した避難場所の機能確保 等）
- ⑤避難・救助しやすい道づくり（避難経路の確保／消防車、救急車が通ることができる道路の整備 等）
- ⑥物資や人を運びやすい道づくり（緊急輸送道路の整備／緊急輸送道路の無電柱化の促進 等）
- ⑦日常から災害に備えるまちづくり（情報の周知／災害時を考慮したベンチ等の導入 等）
- ⑧犯罪の芽を摘む死角のない環境づくり（照度の確保／見通しの向上／空き家の解消／防犯カメラの設置等）
- ⑨自助・共助の体制強化（顔の見える関係づくり／防災まちづくりの推進／地域コミュニティでの連携促進等）

<地域の取組（取組場所が具体的なもの）>

③災害に強い住環境への改善

- A) 岡1丁目、根岸台2丁目、根岸台7丁目東、根岸台7丁目西地区の地区計画区域内においては、計画的な道路整備や壁面の位置の制限、準防火地域への適用等による災害に強い住環境の形成
- B) 根岸台1～4丁目、8丁目など木造住宅が密集する地域や、狭あい道路や行き止まり道路が多い地区については、道路などの基盤の整備を進めるとともに、建物の不燃化、耐震化などの防災性の向上を促進し良好な住宅市街地の形成を誘導
- C) 鉄道をアンダーで通過する箇所における大雨等による浸水対策の強化

地域づくり方針図（現時点案であり本日のご意見を踏まえ、次回に向けてブラッシュアップします）

